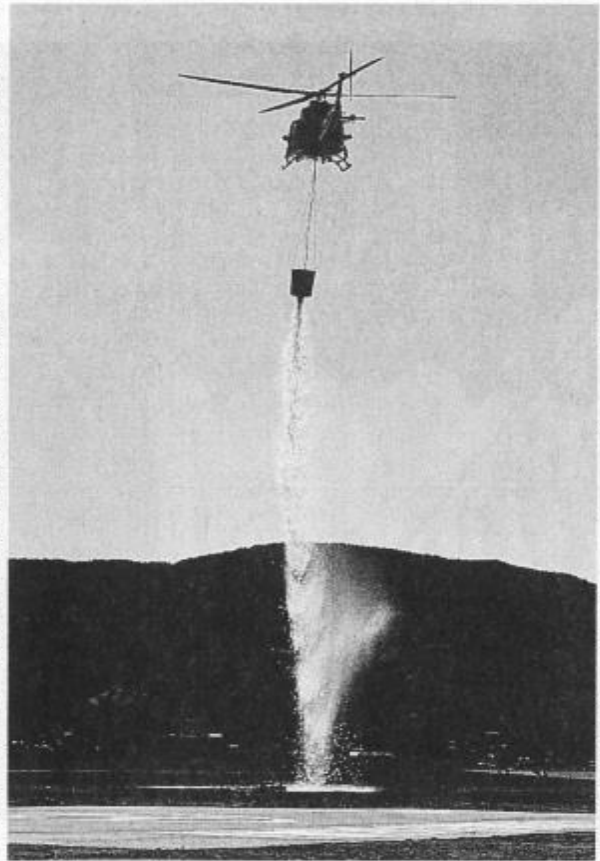


山林火災での実用化へ ゲルパック投下実験 下諏訪で鳥取大など

火元にゲルパック消火剤を投下する県消防防災ヘリコプター下諏訪町の赤砂崎公園で



の赤砂崎公園で、ヘリコプターからの投下実験をした。

山林火災時、航空機消火に使用するゲルパック消火剤の実用化を目指す鳥取大大学院と消火剤メーカー「イルカカレッシュ」（鳥取県米子市）は、下諏訪町

同社によると、航空機の消火活動は、高度が高いと消火水が霧散し、低いと航空機が火災に巻き込まれる危険がある。できるだけ高

高度から消火活動ができないかと、2012年度に両者が産学・地域連携事業としてスタート。13年度から消防庁の委託研究として開発・実証に取り組んでいる。

食用ゲルとトウモロコシが原料。消火剤や再燃防止剤などが入っている。乾燥状態で保存し、5分間水につけると100倍まで膨らむ。

実験は、狙ったポイントに正確に投下する

高精度投下システムの実用化が狙い。県消防防災ヘリコプターが時速50キロほどで進入し、高度22メートルから消火バケツト（容量700リットル）

の消火剤を目標地点に投下、消火効果や散布状況などを確認した。県や近隣の消防航空隊、自衛隊関係者らが見守った。同

社の朝山規子社長は「今年度の実用化を目指す。消火活動に使えるか判断材料にしてほしい」と期待した。
【宮坂一則】

MAINICHI

新 毎 日 新 聞

4月5日(火)
2016年(平成28年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社